

決裁・供覧

件名	最高裁判所裁判官国民審査公報掲載文について（送付）			文書番号	
				最高裁広第252号	
伺い文	別添のとおり送付してよろしいか。				
起案	起案日	令和06年10月09日		受付日	
	部署	最高裁判所 事務総局広報課 広報課 企画係		決裁	決裁処理期限日
				決裁	決裁日 R6.10.15
	起案者	関口 真		施行処理期限日	
連絡先			施行日	R6.10.15	
分類名称	大分類	(企画) 庶務 (事務)		施行先	中央選挙管理会
	中分類	外部対応		施行者	広報課企画係
	名称 (小分類)	庶務事務 (第26回国民審査) (令和6年度)		取扱上の注意	
	秘密区分			格付け	機密性格付け
取扱区分	秘密期間終了日			格付け	取扱制限
	指定事由			保存	行政文書保存期間 5年
				保存	保存期間満了時期 令和12年03月31日
決裁・供覧欄	<p>最高裁判所 事務総局 氏本 厚司 (事務総長)</p> <p>最高裁判所 事務総局秘書課 秘書 福島 直之 (局長)</p> <p>最高裁判所 事務総局広報課 結城 康介 (課長)</p> <p>最高裁判所 事務総局広報課 松本 真悟 (課長補佐)</p>				
備考欄					

審查公報掲載文原稿用紙



最高裁判所判事

尾島明

略

昭和六〇年 四月

平成七年四月

める。

三〇年一月 最高裁首席調査官

四年 七月

最高裁判所において関与した主要な裁判

選挙区割りには、憲法一四条に違反しない（多数意見）。

自室で出産し、死亡したえい児の死体をタオルに

三 令和五年一〇月一八日 大法院判決

議員定数配分規定につき、著しい不平

性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する

五 令和五年一月一七日 第二小法廷判決

政法人理事長の処分は、違法である（全員一致・裁判長）。

国民年金法等による老齢年金を減額する

七 令和六年六月二日 第二小法廷判決

めることができる（全員一致・補足意見付加・裁判長）。

1 旧優生保護法中の優生規定は憲法二三條及び一四條に違反し、その立法行為は國家賠償法一條一項の適用上違法である（今

2. 不法行為による損害賠償請求権の除斥期間経過の主張は、著

合には、信義則に反し又は権利の濫用として許されない（全頁一文）。

裁判官としての心構え

にもコンセンサスがなく、価値観が対立することもある中で、「自

た裁判所が被告を「透明」な手続で「透明」に解決すること、思っています。

備考

- 1 掲載文は、原稿用紙の黒枠内に記載し、又は記録しなければならない。原稿用紙の黒枠上又は黒枠外に記載し、又は記録した掲載文は、掲載しないものとする。
- 2 掲載文に記載し、又は記録する裁判官の氏名は、当該裁判官の本名（当該裁判官に係る戸籍に記載又は記録がされている氏名をいう。）又は旧氏（当該裁判官が過去に称していた氏であつて、当該裁判官に係る戸籍又は除かれた戸籍に記載又は記録がされているものをいう。）及び名によらなければならない。
- 3 掲載文に記載し、又は記録する裁判官の年齢は、審査の期日現在の満年齢によらなければならない。
- 4 掲載文は、原寸大で印刷し、原稿用紙の黒枠の線はそのまま掲載するものとする。

審査公報掲載文原稿用紙



最高裁判所判事
みやがわ みつこ
宮川美津子
昭和三十三年二月三日生

略歴

愛知県豊橋市生まれ。豊橋市立東田小学校、豊橋市立青陵中学校、愛知県立時習館高等学校を経て、東京大学法学部を卒業。
昭和五十九年 四月 司法修習生
六一年 四月 弁論士登録（第一東京弁論士会）
六二年 六月 ハーバード・ロースクール修了（LL.M.）
六三年 三月 ニューヨーク州弁論士資格取得
六四年 四月 TMI総合法律事務所パートナー
六七年 七月 経済産業省産業構造審議会臨時委員、同知財政策部会（現、知的財産分科会）委員
六九年 四月 慶應義塾大学法科大学院講師
七一年 四月 文部科学省文化審議会著作権分科会委員
七二年 五月 日本商標協会理事、令和五年五月期会任
七五年 三月 内閣府知財戦略本部有識者本部員
七七年 六月 エスティー株式会社社外取締役
七八年 六月 パナソニック株式会社社外監査役
七九年 四月 財務省関税等不服審査会関税・知的財産分科会委員
三〇年 三月 公社団法人日本仲載人協会理事
三一年 四月 平成二年度「知財功労賞」（経済産業大臣表彰）
令和 元年 六月 三菱自動車工業株式会社社外取締役
同月 日弁連知的財産センター委員長
二年 七月 一般社団法人日本国際紛争解決センター理事
三年 〇月 東京地方裁判所民部調停委員
五年 一月 最高裁判所判事

最高裁判所において関与した主要な裁判

一 令和六年七月三日 大法廷判決
係生保護法中のいわゆる係生規定は、憲法二三条及び四一条に違反する。係生規定に係る国会議員の立法行為は、国家賠償法一条一項の適用上違法の評價を受ける。不法行為によって発生した損害賠償請求権が民法（平成二九年法律第四四号による改正前のもの）七二四条後段の権利期間の算入により消滅したものとすることが著しく正義・公平の理念に反し、到底容認することができない場合には、裁判所は、除斥期間の主張が信憑性に反し又は権利の濫用として許されないことを判断することができ、同条後段の除斥期間の主張をすることが信義則に反し権利の濫用として許されないとした（全員一致）。
二 令和六年七月一日 第一小法廷判決
宗教法人とその信者との間で締結された全書により、当該信者がそれまでした献金につき、宗教法人に対し、欺罔、強迫又は公序良俗違反を理由とする返還請求や損害賠償請求等の訴えを裁判所に提起しないことが合意されたが、本件においてはこのような不利益の合意が公平良俗に反し無効であると判断し、さらに、宗教法人の信者らによる献金の勧誘行為が不法行為法上違法であるとはいえないとした原審の判断には事理を尽くさなかつた違法があると判断して原決を破棄し、宗教法人らの不法行為責任の有無等について更に審理を尽くさせるために本件を原審に差し戻した（全員一致）。

裁判官としての心構え

昨年一月の就任以来、最高裁判所判事の職責の重さを日々実感しながら、職務に邁進しております。これからは、最高裁判所の判決が当事者だけでなく社会に大きな影響を与えていくものであることを胸に刻み、事件のひとつひとつに誠実に向き合い、公正で妥当な判断を行えるよう全力で取り組む所存です。また、女性弁論士として様々な分野で働いてきた経験を活かし、最高裁判所の多様性に貢献できるよう努めてまいります。

備考

- 掲載文は、原稿用紙の黒枠内に記載し、又は記録しなければならない。原稿用紙の黒枠上又は黒枠外に記載し、又は記録した掲載文は、掲載しないものとする。
- 掲載文に記載し、又は記録する裁判官の氏名は、当該裁判官の本名（当該裁判官に係る戸籍に記載又は記録がされている氏名をいう。）又は旧氏（当該裁判官が過去に称していた氏であつて、当該裁判官に係る戸籍又は除かれた戸籍に記載又は記録がされているものをいう。）及び名によらなければならない。
- 掲載文に記載し、又は記録する裁判官の年齢は、審査の期日現在の満年齢によらなければならない。
- 掲載文は、原寸大で印刷し、原稿用紙の黒枠の線はそのまま掲載するものとする。

審査公報掲載文原稿用紙



最高裁判所判事
石兼公博
いしかわ きみひろ
昭和三年一月四日生

略歴

山口県生まれ。ラ・サール中学校、同高校を経て、東京大学法学部を卒業。
昭和五十六年 四月 外務省入省
平成 八年 六月 在フランス日本国大使館一等書記官、後に同参事官
一〇年 九月 総合外交政策局科学原子力国際協力室長
一一年 八月 中近東アフリカ局アフリカ第一課長
一五年 八月 経済協力局有償資金協力課長
一六年 八月 在アメリカ合衆国日本国大使館参事官、後に同公使
一九年 九月 国際協力局政策課長、内閣総理大臣秘書官
二〇年 九月 大田官房総務課長
二二年 七月 大田官房参事官
二三年 九月 大臣官房参事官
二四年 一月 特命全權大使東海アジア諸国連合日本政府代表部在勤
二六年 一月 国際協力局長
二七年 〇月 アジア大洋州局長
二八年 六月 総合外交政策局長
二九年 九月 特命全權大使カナダ国駐劄兼国際民間航空機
令和 元年 一〇月 特命全權大使国連合日本政府代表部在勤
六年 四月 最高裁判所判事

最高裁判所において関与した主要な裁判

令和六年七月三日 大法廷判決
憲法保護中のいわゆる優生規定（同法三条一項一号か三号まで、一〇条及び一三條一項）は、憲法一三條及び一四條一項に違反し、同規定に係る国会議員の立法行為は、国家賠償法一条一項の適用上違法の評價を受けるといううえで、本件各事件において、不法行為によって発生した損害賠償請求権が民法（平成一九年法律第四号）による改正前のもの（七二條後段の除斥期間の経過により消滅したもの）と主張することは、若く正義・公平の理念に反し、到底容認することができず、同主張は個別的に反し権利の濫用として許されないとした（全員一致）。

裁判官としての心構え

裁判の最終的な判断を行う最高裁判所判事の職務を通じて、日本における法の支配の維持、発展に貢献していきたいと考えています。これまで四十年以上にわたり、行政官及び外交官として積んできた経験を活かし、さまざまな声に謙虚に耳を傾けながら、個別具体的な案件に真摯に取り組みたいと思います。

備 考

- 掲載文は、原稿用紙の黒枠内に記載し、又は記録しなければならない。原稿用紙の黒枠上又は黒枠外に記載し、又は記録した掲載文は、掲載しないものとする。
- 掲載文に記載し、又は記録する裁判官の氏名は、当該裁判官の本名（当該裁判官に係る戸籍に記載又は記録がされている氏名をいう。）又は旧氏（当該裁判官が過去に称していた氏であつて、当該裁判官に係る戸籍又は除かれた戸籍に記載又は記録がされているものをいう。）及び名によらなければならない。
- 掲載文に記載し、又は記録する裁判官の年齢は、審査の期日現在の満年齢によらなければならない。
- 掲載文は、原寸大で印刷し、原稿用紙の黒枠の線はそのまま掲載するものとする。

審査公報掲載文原稿用紙



最高裁判所判事
なかむら

中村 慎
まこと
昭和三十六年九月二日生

略歴

大阪府大阪市生まれ。大阪教育大学附属池田小学校、同池田中学校、同高等学校池田校舎を経て、京都大学法学部を卒業。
昭和六一年 四月 司法修習生
昭和六三年 四月 判事補任官 以後、東京地裁、最高裁人事局、外務省条約局、外務省総合外交政策局国際法部、大阪地裁に勤務し、判事任官後、最高裁裁判所調査官、最高裁総務局長、東京高裁判事、東京地裁判事、最高裁秘書課長兼広報課長を務める。
平成二十四年二月 東京地裁判事（部総括）
平成二十五年 九月 最高裁総務局長
平成三〇年 九月 大宮地裁所長
令和元年 九月 最高裁事務総長
令和四年 六月 東京高裁長官
令和六年 九月 最高裁判所判事

最高裁判所において関与した主要な裁判
最高裁判事就任後が浅いため、特に記すべきものはありません。

裁判官としての心構え

憲法と法律によって最高裁に与えられた権限と責任は、非常に重いものがあります。最終審としての最高裁の判断の重みとその判断が国民生活や社会経済活動に与える影響の大きさに思を致し、司法、裁判の果たすべき役割を意識して、一件一件の事件に誠実に向き合い、多角的・多面的な視点から考えて議論するように心掛けていきたいと考えています。

これまで、地方裁判所及び高等裁判所の裁判として等々民事裁判を担当してきました。双方当事者の主張に耳を傾け、証拠関係を丁寧に検討すること大事にし、核心となる争点ごとに考えるか、その事案で最も適切な解決は何かということに深く考え抜いて決断することに裁判官としてのやりがいと充実感を感じてきました。最高裁判事に就任してから、まだ日が浅いため、関与した主要な裁判を掲げることができません。しかし、これまでの地方裁判所及び高等裁判所での仕事で大事にできたことを最高裁判所の仕事の中でも貫いて、個々の裁判に取り組んでいきたいと思っています。

近時は、価値観の多様化、情報通信技術の飛躍的な発展とグローバル化の進展に伴い、判断の難しい事件が増えているように思います。法制度は、我が国において積み重ねられてきた生活様式に基礎を有するものです。法の解釈に当たっては、社会の状況や国民の意識の変化を踏まつつ、現在における意見の分布や海外の状況といった、本平面での検討だけでなく、時間の流れという、いわば垂直方向からの位置付けの視点を認識した上で、考察・判断していくことが重要だと思います。独断に陥ることなく、より良い判断をしていくため、一層の自己陶冶に努め、誠実を旨として、課せられた責任を果たしていきたいと考えています。

備考

- 掲載文は、原稿用紙の黒枠内に記載し、又は記録しなければならない。原稿用紙の黒枠上又は黒枠外に記載し、又は記録した掲載文は、掲載しないものとする。
- 掲載文に記載し、又は記録する裁判官の氏名は、当該裁判官の本名（当該裁判官に係る戸籍に記載又は記録がされている氏名をいう。）又は旧氏（当該裁判官が過去に称していた氏であつて、当該裁判官に係る戸籍又は除かれた戸籍に記載又は記録がされているものをいう。）及び名によらなければならない。
- 掲載文に記載し、又は記録する裁判官の年齢は、審査の期日現在の満年齢によらなければならない。
- 掲載文は、原寸大で印刷し、原稿用紙の黒枠の線はそのまま掲載するものとする。